



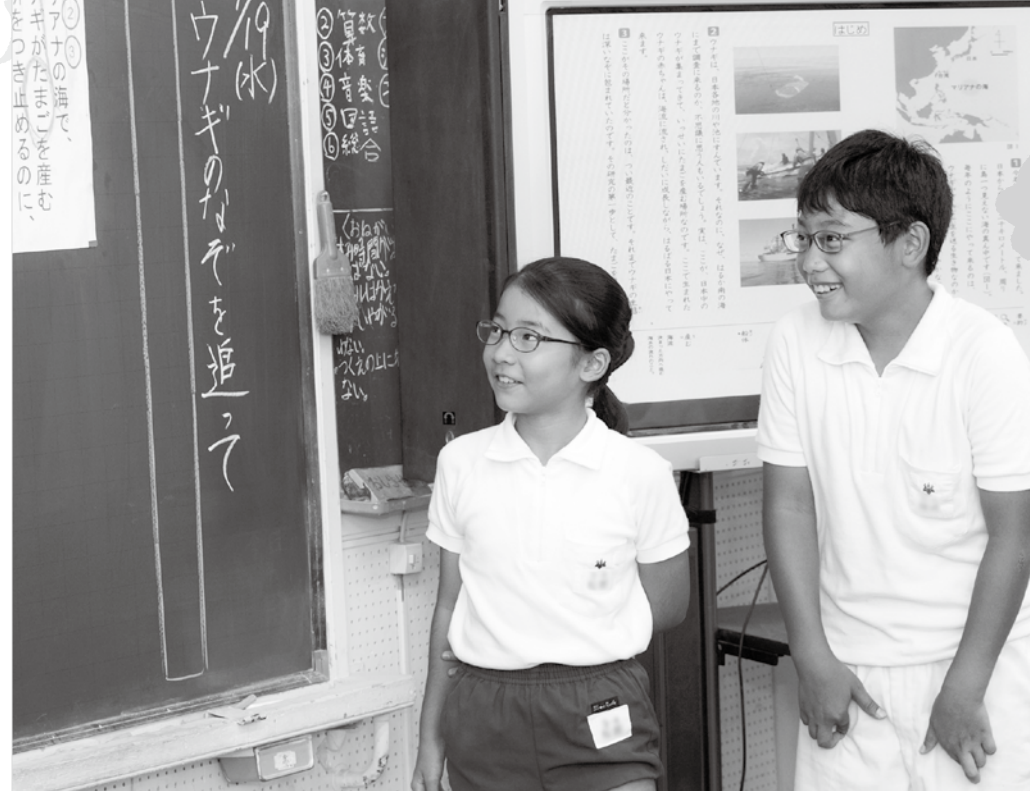
▲※1 教材文の速読競争。ペアで音読し、読み終えたら挙手する。いちばん速く読めたペアのタイムは3分14秒だった。

授業のはじめに、教材文の速読競争を実施（※1）。いちばん速く読めたペアのタイムを発表し、どんなに速く読んでも、三十分十四秒かかるということをクラス全体で共有します。ここで、桂先生は、子どもたちに架空の設定と課題を伝えます。

2時

エレベータートーク

子どもたちが興味をもちそうな架空の状況を設定することで、「要約」という言語活動に主体的に取り組ませます。



撮影：鈴木俊介（P6～9上段）

指導方法を
分析・解説！

「ウナギのなぞを追って」

（四年下） 授業者 桂聖（筑波大学附属小学校教諭）



山口県生まれ。日本授業UD学会理事長、全国国語授業研究会理事。著書に、『国語授業のユニバーサルデザイン』『Which型課題』の国語授業（東洋館出版）などがある。光村図書小学校『国語』教科書編集委員。

ここからは、実際の授業例をもとに、「考えの形成」を促すための具体的な指導方法をお伝えいたします。

「ウナギのなぞを追って」は、「興味をもったところを中心に要約して紹介する」という言語活動が設定されている教材です。桂先生は、「要約して紹介する」という言語活動を通して、子どもたちが自分の考えを深めることができるよう、さまざまなしかけを用意しました。本誌ではその一部をご紹介します。

指導計画（全8時間）

第1次

- 1時 ・全文を読み、教材文を「はじめ」「中」「終わり」に分ける。
- 2時 ・要約への課題意識をもたせる。
・「語句置き換え」などによる内容理解。
・「はじめ」における「まとめ」の働きに気づく。

第2次

- 3時 ・いちばん興味をもった調査を選ぶ。
・予想と結果を読み分ける。
- 4時 ・文末表現に着目して、予想にあたる文章を探す。
- 5時 ・略述と詳述を捉える。
- 6時 ・興味をもったところを中心に要約して話す。

第3次

- 7時 ・前時に口頭で紹介した内容を、文章にする。
- 8時 ・前時に書いた文章をペアで読み合う。

先生 みなさんは、ある会社の社員です。

エレベーターの中で社長にばったり会い、こんな課題を出されました。（※2）君、「ウナギのなぞを追って」を読んだのか？ では、エレベーターに乗っている間、一分三十秒で要約して紹介してくれ」だって。

突飛なおもしろい設定に、子どもたちは興味津々の表情で画面を見つめます。

先生 このクラスの中でいちばん速く読める人でも三十分十四秒かかるのに、「一分三十秒で紹介してくれ」って言っているよ。どうすればいいかな。

児童 教材文の大事なところだけを読めば、短くなるよ。



▲※2 電子黒板に提示した架空の設定。紹介する相手や場面を具体的に設定することで、子どもたちは明確なイメージをもちながら課題に取り組める。

児童 要点だけ話せばいいと思う。

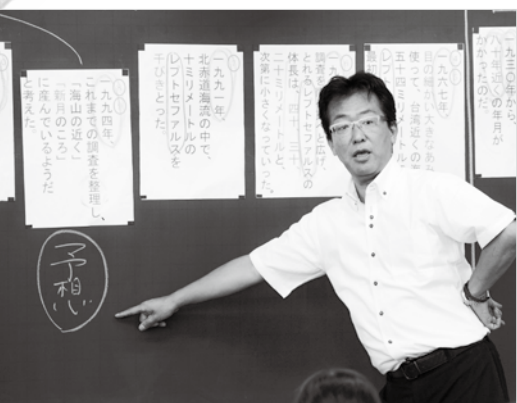
架空の設定ですが、子どもたちは紹介する相手や場面を明確にイメージすることができ、「要約する」という活動に必然性が生まれ、主体的に取り組もうとする意欲が高まりました。

センテンスカードの提示

教材文全体を八枚のカードに整理して、黒板に提示します（次ページ※3）。これは、全体の構成を構造的に捉えさせ、思考操作をしやすくするためのカードです。クラス全員の理解のレベルを揃えることで、どの子も自信をもって自分の考えを表現することができるようになります。

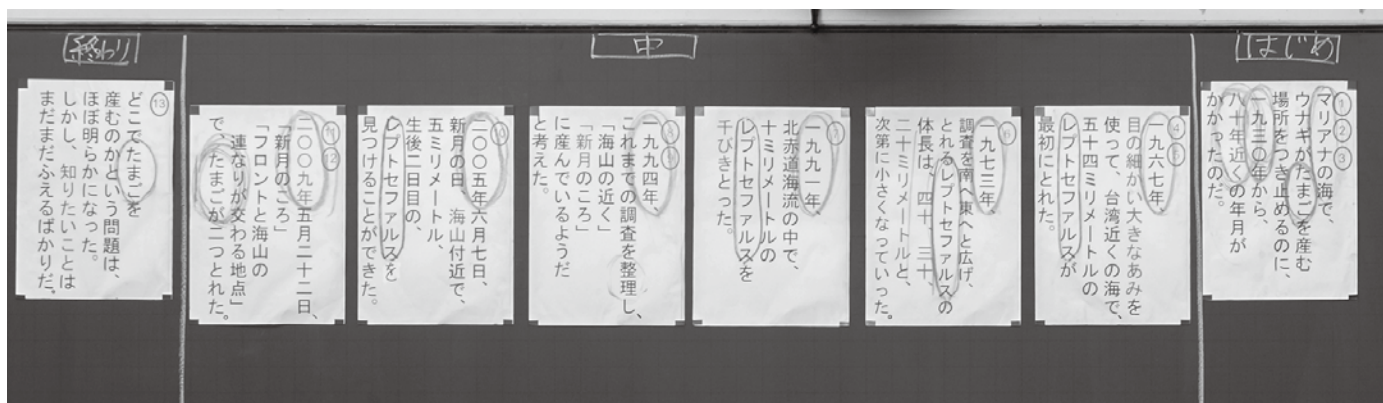
間違い探し

センテンスカードの中に、間違った語句や文章を入れておきます。その誤りを指摘する活動をおして、内容理解を促したり、文章への興味を引き出したりします。



先生 じゃあ、このカードはいらないね。
児童 え、そのカードは大事だよ。だって、
整理して予想したことによって、「海山の
近く」とか「新月のころ」とかがわかった
んだと思う。
児童 その整理がなかったら、いまだにた
まごがとれていないかもしれないよ。
児童 この段落がないと、筆者はただ単に、
網を投げ続けているだけになっちゃう。
先生 なるほど。予想が書かれていないと、
網を投げていただけの話になるんだね。八
九段落のほかに、筆者の予想が書いてあ
るところはないのかな。

このあと、他の段落からも予想の文を探
していきました。予想と結果をしつかり捉
えることで、説明文の文章構成がわかり、



※3 「ウナギのなぞを追って」のセンテンスカード。教材文全体を8枚のカードに整理している（カード内のマル数字は形式段落の番号）。
全体の構成を構造的に捉えることができ、思考操作がしやすくなる。

次の例のように、子どもたちが笑ってし
まうような間違いを入れて、教材文に注意
を引きつけるのがポイントです。

例（四・五段落のカード）

- 【誤】虫取りあみを使って、
- 【正】目の細かい大きなあみを使って、
- （十三段落のカード）
- 【誤】食べたいことはくふえるばかりだ。
- 【正】知りたいことはくふえるばかりだ。

3時

状況設定の変更

「要約」のしかたに自分なりの考
えを反映させるために、第二時に設
定した状況を変更します。

先生 あれ、このあいだの社長がまた登
場！（電子黒板に社長の吹き出しを提示）

「おっと、そういえば、この階で下りなけ
れば……。時間が無い。君が興味をもった
ところを中心に、要約して紹介してほしい」
だって。

児童 社長、わがままだね！

先生 社長は忙しいからね（笑）。

内容の解釈も深まります。自分の考えの根
拠もより明確になるのです。

6時

ペアによる役割演技

一分程度に要約した内容をペアで
紹介し合います（※4）。社員と社長
という役割を交代しながら繰り返し
話すことで、要約に関する自分の考
えを形成していくことができます。

【1さんの紹介文】

※6時に口頭で紹介した内容を、7時に文章にしたもの。
この説明文はウナギがどこでたまごを生む
のか、マリアナの海で一九三〇年から八十年
近く調査したことを伝えていました。私は、
八十年も調査し続けるなんてすごいなあ、そ
んなにかかったの!?と思いました。

たくさんの調査の中で私がきょうみをもつ
たところを二つ紹介しようと思います。

まず一つ目は一九九一年、北赤道海流の中
で、十ミリメートルのレプトセファルスを手
びきとったところですよ。

なぜかという、塚本さんたちは木の年輪
にいた輪をかぞえ、今まで行っていた冬より
夏の方がいい!と気づいたのがすごいなあ
と、千びきもとれたの!?とおどろいた
からです。

そして、もう一つは、二〇〇九年五月二十二

一分三十秒で要約するという設定を、興
味をもったところを中心に一分で紹介する
という設定に変更しました。

いちばん○○な場面は？

「いちばん興味をもった調査はど
れ？」など、答えに選択肢をつくる
ことで、全員が自分の考えをもちやす
くなります。その際、なんとなくそ
う思う、というだけで終わらないよう、
選んだ理由も述べさせ、自分の考えを
はつきりした形にしていけます。

ゆさぶり発問

「先生、違うよ!」という発言を
引き出すことによって、子どもの考
えをより明確にします。

先生 『中』（六枚のカード）の中で、い
ちばん興味をもった調査はどれ?」って、
みんなにきいたけれど、一枚だけ違うもの
が入っていたね。

児童 八・九段落のカードが違うよ。

児童 調査を整理しただけで、調査してい
ないね。



※4 ペアによる役割演技の様子。
社員役（立っている児童）は社長役
（座っている児童）に、要約した内
容を紹介します。

日、「新月のころ」「フロントと海山の連なり
が交わる地点」でたまごが二つとれたとい
うところですよ。
理由はたくさんさんの予想をしてやっとなまご
が二つとれた、つまりゴールにたどりつけた
のがすばらしい!と思ったからです。
たくさんさんの調査をしてやっとなまごにたど
りつけましたが、塚本さんたちは知りたいこ
とはまだまだ増えるようです。次はどんな調
査をするのか楽しみです。

「考えの形成」は、まず教材文の内容理
解が太前提となります。そのうえで、教師
のさまざまなしかけによって、子どもたち
に主体的な言語活動を促し、それを通して、
「自分がどう考えているのか」をはつきり
認識させていきます。

本実践では、先生や友達との対話や、自
分自身の考えを客観的に見つめ直すことを
通して、子どもの思考が整理され、深まっ
ていきました。